

6年

キセキ

中野区立
中野第一小学校

5月号

R2. 5. 11

STAY HOME～学校再開まで 一緒にがんばりましょう～

新型コロナウイルス感染症への対応で、臨時休業の延長となりました。学校という建物が存在していても、そこに子供たちが居ないと、学校は大変味気のないものです。一日でも早く、子供たちが学校に戻ってくる日が来るよう、願わずにはられません。

4月末よりお電話にて子供たちの様子を聞かせていただきました。制限のある中、各ご家庭で工夫されて過ごされている様子が伝わってきました。ありがとうございます。今後も学校のホームページに随時、家庭学習に使える学習材や情報を更新して参りますので、ご確認ください。

この5月号の学年便りでは、1ページ目：4月に行う予定だった保護者会での資料を、2ページ目：休校延長に伴うお願いの構成で、保護者の方へのお知らせとお願いをお伝えします。

★ 担任・専科担任の紹介

6年1組	6年2組	6年3組
ご進級おめでとうございます。今年も全力で色々なことにチャレンジして、思い出に残る1年間にできたらと思います。クラス・担任は変わりましたが、学年全体で一致団結していきます。どうぞよろしくお願ひします。	今年度もみなさんと一緒に過ごすことになりました。ついに6年生ですね。コロナ感染拡大で大変な世の中ですが、人生で1度しかない小学校6年生。みなさんと一緒に全力で頑張っていきます。今年度もよろしくお願ひします。	小学校生活最後の一年を共に過ごすことのできる責任と喜びを感じています。子供たち一人一人が安心して学校生活を送れるように、自分の力を高めていけるように、精一杯見守り、支えています。1年間よろしくお願ひします。

- ・音 楽
- ・算数少人数
- ・外 国 語

- ・図 工
- ・家 庭 科
- ・A L T

学年便りタイトル「キセキ」に込めた担任3人の思い…

「奇跡」…新しいクラス、新しい担任と出会えた「奇跡」。この出会いからいくつもの「奇跡」のような出来事が生まれますように、という願ひを込めて。

「軌跡」…小学校生活最後の1年。一つ一つの思い出が積み重なり、卒業の時にはどんな「軌跡」が描かれるのか、楽しみにしたいという願ひを込めて。

★ 6年生の心と体

6年生の心

<生活面>

- ・小学校生活最後の年という思いから、しっかり生活したいという、成長への自覚が生まれる。その一方で、要求に応えたい思いと要求に十分応えきれない自分とのはざままで努力の限界を感じ、挫折感や劣等感を抱くこともある。また、自分をよりよく見せようとして、自信過剰な態度をとることもある。
- ・視野が広がる。見通しをもってできるようになる。
- ・心の安定と正しく見る目が育ってくる。
- ・友達とのささいな行き違いに、無力感をもつこともある。
- ・異性への関心が高まる。男女の違いに気付き、意識して付き合うようになる。
- ・背伸びしたい気持ちが高まる（ファッション・態度）。

<学習面>

- ・論理的な思考・理解・創造性が育ってくる時期。
- ・学習に対する「できない」、「嫌い」、という思いを強く意識するようになり、勉強の仕方に不安を抱きやすい。
- ・個が集団をつくり、集団が個を育てる（集団の中で伸びていく）

6年生の体

- ・女子の方が、成長が早い傾向がある。（女性は時間をかけてしっかり出産できる体の準備をするため）子供たちにも、男女の違いの理由を教え、互いに尊重しあう心をもつようにさせたい。
- ・男女共通の特徴
 - ①身長、体重ともに増加。
 - ②性ホルモンの働きによる身体の変化が起きる。（第2次性徴）
- ・男子の特徴
 - ①筋肉がついてきて、がっしりとした体つきになる。
 - ②精通が見られる。（6年生では20%程度）
- ・女子の特徴
 - ①皮下脂肪がつき、ふっくらした体つきになる。
 - ②初潮がある。（6年生では33%程度）
- ・配慮すること
 - ①個人差が大きい…子供たちは、友達との違いに敏感な時期なので、個人差があることを教え、不安を取り除くことが大切。
 - ②成長の喜びを…体が大人に変化していくことを恥ずかしいと感じる子供もいる。これは誰にでもある変化であり、素晴らしいことだという思いで子供に接し、子供が自分の体を大切にできるようにアドバイスをする。（心と体がアンバランス）

以上のような時期にある子供たちです。一人一人の違いを認め大切にしながら、学年全体を担任3人で指導していきます。お子さんのことで気になることや心配なことがありましたら、いつでも担任にご相談ください。

★ 休校延長に伴うお願い（子供の心のケアについて）

はじめに…

新型コロナウイルスにより、突然の臨時休校は年度をまたぎ、全体で2カ月を超えました。子供たちの心身の状態や教育への影響ははかり知れず、またお家の方々も大変な思いをされている中、仕事や家事、育児に取り組まれていることと思います。この先もどうなるかは、いまだ不透明です。依然として安心して安全な生活を送ることのできる状況ではありません。

そのような中、怖い思いを感じることや生活が変化することへのストレスからメンタルケアの重要性を訴えるなどの報道もなされるようになってきました。子供たちの安心の一番の拠り所であるご家庭でも、子供たちの心のケアをお願いしたく、書面にまとめました。

ご家庭でお願いしたいこと

①子供たちは不安いっぱいの中、精一杯頑張っていることを大人が受け止める

「人と関わること＝危ない」という状況の中、子供たちは今、とても頑張っています。家にずっといる状況では、不安なことやしんどいことが浮かんで来て、それが大きくなってしまふこともあるかもしれません。

子供にできるだけ触れてあげてください。『触れる』というのは、肌と肌で触れることではありません。眼差して触れる、優しい雰囲気でも触れることも『触れる』ということになります。また、お子さんの表情がいつもと違う時は、「心配なことはない？」「浮かぬ顔しているね。」などと、表情面から受け取れることを表現なさってください。普段と比べて妙に幼くなったり、逆に6年生くらいになると素直に甘えたい気持ちを出せなかったりすることもあります。その子の変化や感情に気がついている人がいることを伝えてあげるのがとても大事です。

②大人のストレスや不安が子供にも伝わるため、大人も自分を大切にす

大人も日々変化する状況に対して不安やストレスが大きくなっています。怒りっぽくなったり、涙ばかり出てしまったりすることもあるでしょう。不安に駆られて、急にお子さんを抱きしめる…そんな普段ではない自分がお母さんやお父さんになっているかもしれません。

でも、それはそれでよいのです。ご自分でご自分にOKと言いましょ。そして、その上で、目の前のお子さんにも「あなたはそれでOK」と言いましょ。

③家族の一員として子供に役割を与え、自分も役に立っていると実感させる

「洗濯物をたたむのを手伝ってくれる？」「一緒にお料理をしてみる？」など、家族の一員として頼りにして、声をかけてあげてください。役に立っていると考えることがあると、子供たちは自信を持つことができます。見方を変えると、親子でこんなに長い時間一緒にいられることはなかなかないことです。これまで以上に、よりよい親子関係が築けるとよいなと願っています。

④朝の健康観察を丁寧に

朝の健康状態を丁寧にみてください。ストレスが高いと早い段階から身体的な不調を示す場合が多いそうです。「よく眠れた？」「朝ごはんは食べられそう？」などと、声をかけてください。

おわりに…

今回お知らせした情報は、「新型コロナで休校中の子どもたちに、いま大人ができること」副島賢和（昭和大学医学部准教授）のコラム内容等をまとめたものです。

<https://forbesjapan.com/articles/detail/33548/1/1/1>

<https://forbesjapan.com/articles/detail/34267/1/1/1>

学校のホームページでは、「長い臨時休業の中で…、ぜひ参考にご覧ください」と題し、国立成育医療センター「新型コロナウイルスと子どものストレスについて」のページを紹介しています。

<https://www.ncchd.go.jp/news/2020/20200410.html>

お子さんの変化で気になることがありましたら、遠慮なく学校にもご相談ください。

★ 休校延長に伴うお願い（学習について）

2か月を超える「学びの空白」ができることを心配に思うご家庭も多いと思います。一方で、付きっきりでお子さんの学習を見ることが難しいご家庭もあると思います。「勉強しなさい。」「きちんとやったの？」…と、家庭での学習が親子げんかの種になってしまつては、子供たちの学ぶ意欲にとっても、お家の方の精神衛生にとっても、悪影響です。

まず、前提として以下の3つの点をお伝えします。

- ・6年生の学習内容は、学校再開後、最初から一つ一つしっかり学習をします。
- ・家庭学習の取り組みは、生活のリズムを整えることが大切な目的の一つです。
- ・子供たちの「学びたい」意欲を大切に、随時、学校も方法を考えていきます。

その上で、5月の家庭学習の内容は、一部、学校への提出を前提として課題を出します。各ご家庭で、時間割を活用し、計画的に取り組んでいただきたいと思います。

学校の授業でも、作文や新聞づくりなど「一人で取り組む学習」の時間がありますが、その際に担任が心がけていることを紹介します。ご家庭での見守りのヒントになればと思います。

①一人で取り組むことのできる場合

そっと見守りつつ、できた時に「頑張ったね。」と声掛けを。時々、休憩も促します。

②誰かが声を掛けたり取り組むことのできる場合

「ここまでできたんだ！」「困っていることはない？」など、なるべくポジティブな声掛けから始め、その後、間違いなど気付いたことを伝えています。

③誰かが一緒だと取り組むことのできる場合

横に座ってじっと見る場合もありますが、同じ空間にいて、大人は違うことをしてもよいと思います。困った時に子供が安心して聞くことができるように、傍で見守ります。

④誰かが一緒でも取り組むことの難しい場合

その子の集中が続く短いスパンに変えてみる、気分転換をしてから取り組ませるなどしています。大人と一緒に、自分で取り組み方を決められるとよいかと思っています。

教科や時間帯、その日の体調や気分によって、①から④の中で変化があると思います。お家の励ましが子供たちのエネルギーになると思います。ご協力よろしくお願ひいたします。